第２回一宮駅周辺地区ウォーカブル推進事業に係る対話型説明会
議事概要

１．日時・場所

2024 年 10 月 20 日（日）14:00～16:00
一宮市役所本庁舎 14 階 1401 大会議室

２．出席者

参加者　15 名
（アドバイザー）株式会社ワークヴィジョンズ 代表取締役　西村 浩　氏
（ファシリテーター）大日本ダイヤコンサルタント株式会社　森田 紘圭　氏
（事務局：市）一宮市まちづくり部都市計画課

３．次第

（１）本日の説明会について
（２）一宮駅周辺地区ウォーカブル推進事業の目的や経緯について
（３）意見交換

４．議事概要

・スライドに沿って目的や経緯についての説明を行った。
・ウォーカブル事業についての意見交換を行った。

５．主な意見

（参加者）
〇子育て世代からの意見
・駐車場がある近隣施設からのシャトルバスや駅周辺の駐車場割引など、車でも来やすい環境があるとよい。子どもがいると車での移動が安心である。
・市内でいつでも行けるところであれば、イベントがなくても、お金をかけず楽しめる場所がいい。
・子どもたちの居場所がないため、遊び場を作ってほしい。周りの目（人目）があれば、子どもだけで安心して遊びに行かせてあげられる。
・夜、駅周辺が暗く、安心して出歩けない。子どもは近くても車で送迎が必要になる。
〇周辺住民からの意見
・誰のどんな賑わいを目指しているか。イベントでにぎわうことは重要だが、住民に配慮してほしい。
・日中に人が増えることは良いが、深夜にも人が増えるとうるさくて住んでいられなくなる。
・本町通りで 10 月 1 日から通りにテーブルを出してよい取組が始まったが(※ホンマチチャレンジ)、お店の人にとって外でのサービスは難しいと聞いている。
・真清田神社の門前市である三八市をまた始めてほしい。
・銀座通商店街には車での来街者も多く、一方通行化の検討の際は影響を検討してほしい。地下駐車場の入り口は残してほしい。

・千歳通りの通行止めについて、交通問題がなく、それが民意であれば良いと思う。ただし、千歳通り沿いの事業者や住民の声を踏まえて検討してほしい。

（アドバイザー）

・周辺住民がいつでも行けると思いながら結局来ないまちは機会損失している。子育て世代が来ないまちは徐々に用途が偏り、飲み屋街となり、ビジネスマンしかいないまちになる。子どもがまちへ行かなくなると、次の世代がまちに興味がなくなり、都会に出て帰ってこないという悪循環に陥る。行きたいから行く状態をどうつくるかを本気で考える必要があり、そのためのアイデアがほしい。
・ひとくちににぎわいと言っても、イベントを望むのか、地元の人が日常的に滞在することを望むかで方向性が全く違う。豊かな暮らしをどうつくるかを皆さんと議論し共有することが大事である。
・まちとしてオープンテラスをやろうとしたとき、現実的にお店の事業収入が上がらないと実施できない。その方面からも、日常的に人がいる状態をつくる必要がある。

6．まとめ

・賑わいは誰のためかを考え、来街者や事業者、周辺住民のバランスのとれたルールをつくることが必要である。特にごみや騒音、悪臭は周辺住民にとって大きな問題である。
・子どもが一宮市を好きになり、大人になっても住み続けたいと思えるようなまちづくりが必要であり、一宮らしい個性ある暮らしが魅力となるが、それが何なのかを考えないといけない。
・子育て世代が、親子もしくは子どもだけでも安全に自由に過ごせる場所をまちなかにつくる必要がある。日常的な利用を想定し、車でのアクセスやあまりお金をかけなくても滞在できるような環境があると良い。いつでも行けるから行かないのではなくいつでも行けるし今日も行くというまちとしたい。
・駅前にマンションが増えているが、そこに住む人が買い物をするとき、郊外や名古屋に行くのではなく、暮らしている場所の近くで様々な日用品を買うことができるまちづくりがいい。名古屋に働きに出ても買い物は一宮で、土日は一宮のまちで過ごすことを目指す。